

# 教務だより

2014年2月号  
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

## 未来をつくる学習体験

茗溪塾塾長 宇野 雅春

卒塾した教え子と、数年ぶりに街で出会いました。もう乳母車を引いていて、かわいらしい赤ちゃんが、その中でじっと仰ぎ見るようにこちらを見ていました。それから何度かその教え子とすれ違うことはありました。月日は流れて、忘れたころにその教え子が中学生になった子供を連れて塾に来ました。家であまりに勉強しないので、業を煮やして入塾させることにしたということです。そして、瞬く間に三年が経ち、高校合格を決めてその子は卒塾していきました。卒塾面談の日、その時初めて、あの時の赤ん坊がその子であることに思い当りました。在籍中にそんな話もできないまま、ただただ多忙の中を走っていると、時間の過ぎる早さに驚きを感じます。

受験を終えた皆さん、今一息ついている時期かと思えます。ですが、自分のことこれからのことを真剣に考えて先に進みましょう。若い時の一年一年の重さを考えましょう。私にとっては一つのエピソードにすぎない話も、考えてみれば私と教え子の間の二十数年にわたる話なのです。高校に入り、大学に行き、就職し結婚し、子供を産み育て、高校受験させるまでということです。振り返ると「あつという間の出来事」と言うのが実感です。

淡々と繰り返されていくこと…。こんな風に教え子が「教え子」をさらに連れてくる時期に入っているということは、「未来が見える」ということにつながる気がします。今この瞬間から二十数年後を見通すことはできなくても、何が必要になってくるのかは「わかる」気がするのです。将来に役立つことを、きちんと身につけさせたいと思います。

「優先順位」「WIN-WIN」「その日学習」「To Do List」など、教科勉強法以外にもたくさん活かせるものがあると思います。合宿や合同特訓などで一貫して追求されるコミュニケーション能力の育成等も、社会に出ると生きてくると思います。

小学校の低学年から見てきた生徒が、中学生、高校生になるにつれてどんどん変わっていきます。心の成長を作らないと、受験で合格しないということも多々出てきます。特に上位校受験には、強い心が必要です。最近の親は昔と違って、子どもに無理をさせたくない（自分も無理をしたくない）という傾向が強いように思います。ものわかりがいいと言えなくもないけれども、子供により高いレベルを期待することが、私には悪いこととは思えないのです。

むしろ、期待をするべきだと思います。期待するあまりにかき回すことが良くないだけで、子どものやる気は親の期待感の有無が大きく影響します。「お好きなように」では子供のやる気をそぐ結果になります。親が期待し、子どもが高い目標を目指すことで、子どもの成長が著しく違ってきます。高校受験ともなれば子供の意識も大きく変化する時期ですから、ここを成長のポイントにする必要があります。うまくいかなかった時もこの目指したという体験が、その後大きく影響します。

入れる学校に入るための勉強ではなく、入りたい学校を目指す勉強にしてほしいと私は強く思います。自分の限界を突破する体験は貴重です。合否は結果に過ぎません。そこで得た「成長」が未来を切り開く原動力になります。「合格」するための努力、そしてそこに至るまでいくつかの困難を乗り越えること。受験という一時の出来事のようなのですが、そこからの長い人生に大きく影響するものであることは間違いありません。君が味わった喜びも、悔しさもすべてが君を成長させるためのものだということです。あつという間に時は過ぎます。でも、自分を成長させての人生は恐らく充実したものになるはずですよ。

勉強が出来るということ以外にも「必要」なことがたくさんあり、それが受験で試されたということだと思おうのです。